

3

There was a very wealthy merchant.

Since the merchant had talent for business, just within his generation he earned enough money to lead a luxurious life for the rest of his life.

Nonetheless, it was impossible for the merchant to overcome his disease, and eventually he died, leaving behind his three young sons.

The oldest son received the merchant's money, and the second oldest son received the merchant's house and land.

However, there was nothing left for the youngest son, Cavara.

Cavara's bothers kicked him out of the house after giving him a single cat that the merchant loved.



5

Cavara had neither money nor food. The only thing he had was just a single cat.

"Sigh...I wonder if I can get some money by selling you."

When Cavara muttered these words, the cat suddenly stood up, speaking to Cavara.

"Wait a moment. I can be a big help to you."

"What!? You can talk!?"

"Yes. Please get boots and a bag for me."



あるところに、おおがねもちの  
しょうにんが いました。  
しょうにんは しょうばいの さいのうが  
あったので、たった いちだいで、  
いっしょう ぜいたくして くらせるほどの おかねを  
かせぎました。

しかし そのしょうにんも びょうきには かてず、  
まだ わかい さんにんの むすこを のこし、  
なくなってしまうました。  
ちょうなんは、しょうにんが のこした おかねを  
もらい、じなんは、いえや とちを もらいました。

ところが さんなんの『カバラ』には、  
もう なにも のこされていませんでした。  
ふたりの あには、なくなった しょうにんが  
かっていた いっぴきの ねこを  
カバラに おしつけて、カバラを いえから  
おいだして しまったのです。



カバラは おかねを もたず、たべるものも なく、  
あるのは いっぴきの ねこだけです。

「はあ・・・おまえを うれば、  
すこしは おかねに なるかな？」

カバラが そうつぶやきました。

すると ねこが すっと たちあがり、  
カバラに むかって はなしかけてきました。

「ちょっと まってください。わたしは じゅうぶんに  
あなたの おやくに たてますよ」

「ええ！おまえ、しゃべれるのかい！？」

「はい。わたしに『ながぐつ』と『ふくろ』を  
よういしてください」

